会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 合同委員会（第3回職業実践専門課程普及協議会・第2回体制づくり推進委員会・第4回実態調査WG・第3回普及促進WG） |
| 開催日時 | 令和2年12月15日（火）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 専門学校岡山情報ビジネス学院 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾 委　　　員：岡村　慎一、成底　敏、泉田　優、氏部　正、松田　義弘、小田　政江、山根　大助、※オンライン参加　猪俣　昇、増子　卓矢、富久　重信、五十部　昌克　　　　　　　　　　 計 12名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計13名 |
| 議題等 | 1. 視察調査結果の共有（成底）

・5校のヒアリング調査が終了した。・ヒアリング対象者のほとんどの方は職業実践専門課程申請の経歴を持っており、引き続き就学支援の申請をした方が多い。・引継ぎについてはOJTが多かった。・専修学校設置基準の理解度は必要に応じて確認。・【12職実】【23修支】のデータ収集方法については、各書類作成の担当が作成し、最終的に学校責任者が確認する方法が多かった。・インプット手段は、各学校により実施月はまちまち。外部・内部とも機能している学校と形式上の学校に分かれた。・内部書類作成については、学内での既存データもしくは書類作成時期に作成部署から取得する方法が多かった。・アウトプットは自己点検評価のデータを提示している学校が多かった。・情報公開については、要件だからという学校が多く、有効活用という観点から公開している学校は少なかった。・後継者の育成については、始めているところもあれば、まだ考えていないところもあった。・後継者の身につけて欲しい知識・スキルについては、「文章力・文章の読解力」が多く、「専修学校設置基準の理解」、「事象に対しての対応」が続いた。・人材育成では、効果的なデータ収集方法の事例などが求められた。1. 第2回視察調査の必要性について（成底）

【議論】・効果的なデータ収集方法の事例が求められているのであれば、そのような仕組みのある学校を探さなければいけないのでは。（高岡）・当校：麻生塾では全部ではないが、共通データなどではある程度の仕組みがある。（松田）・第2回では、アンケート、ヒアリング調査の結果を共有し、裏付けの意味も含め後継者の育成について項目を設計したらどうか。（成底）・引き継ぎの際に受けたら一通り作成ができるという研修内容にしたい。（高岡）・職務分掌的に考えれば、作成担当の役職が引き継いでいくものだと思う　ので、作成担当者もステップアップのためのスキルとして考えられれば　いいのかと思うが。（松田）・研修目的は「効率的に作成できる」「魅力的に活用できる」ことなので、　書類の体系的な説明のほか、どのような活用方法があるのかを加えられるといい。（岡村）・情報公開の新しい価値観を提供できると良い。（高岡）・書類を作成するだけではなく、活用も含めた研修にするには、ヒアリン　グ内容も変わってくる。オープンキャンパスやホームページで発信する　情報と共通する書類を確認するのもいいのではないか。（五十部）・まずは書類の関係図の作成、プラスどういう視点でターゲットに合わせた見せ方を、広報や教員が考えていける内容が良い。（岡村）・広報の考え方や在り方を提案することにもなるのでは。（泉田）【結論】・第2回のアンケートを実施する。・まずは「法律根拠に基づいて効率的に書類を作成できる」を柱にヒアリング内容の検討をする。・1月中旬にアンケート内容素案を作成し、1月20日アンケート開始。　1月末日締切後結果集計。1. セミナーの開催について（成底）

【議論】・いくつかの成功事例の発表後ディスカッションをするような内容ができ　ればセミナーを実施しても良いかと思う。（飯塚）・現在の進捗、セミナー内容、実施時期を考慮すると無理に実施する必要はないと感じるがどうか。（成底）・賛成。（全員）【結論】・本年度のセミナーは未実施とする。1. 成果報告について

【議論】・現状ではオンデマンド配信を予定している。3事業全体の概要説明後、事業ごとに概要・成果を発表することになる。（泉田）・本事業の発表内容的は、①事業概要の説明　②アンケート調査・ヒアリング結果となる。（飯塚）・どのように収録するのか。できれば収録関係者は集まれると良いと思うが。（成底）・3事業集まるのは現状では難しいのではないか。集まるとすれば出張制限がある人もいるので福岡になる。ネットワーク上の集合でも収録は可能。できれば最後に質疑応答を入れ込めると良いので、聴講者がいると良い。（飯塚）・オンデマンド配信の準備は担当する。（猪俣）・成果報告のUP期間はどのくらいになるのか。（高岡）・UP期間は永続的でよい。事業の成果実績の提出前に実績が必要なので、2月下旬には公開を開始したい。（飯塚）・次回委員会と収録を同日にできないか。（泉田）・アンケート調査結果の共有後、成果報告で使用する資料を作成する時間　が必要なので別日程にしたほうが良い。（飯塚）【結論】・次回委員会で内容・収録方法を検討し、2月中旬に収録する。5. 今後のスケジュール・第2回アンケート調査1月中旬にアンケート内容素案作成、1月20日アンケート開始。　1月末日締切後結果集計。・次回合同委員会（第4回職業実践専門課程普及協議会・第3回体制づくり推進委員会・第5回実態調査WG・第4回普及促進WG）　2月9日（火）16:00～　オンライン開催　成果報告の内容、収録日程の決定。 |
| 配布資料 | ・ヒアリング結果集約 |

以上